

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書

団体名	桜本こども食堂運営委員会
-----	--------------

取組の名称	桜本こども食堂
実施場所	桜本保育園（川崎区桜本 1-9-6）
対象地域	主に川崎区内
対象地域の特色・課題	川崎区は川崎市内でもひとり親世帯や外国人世帯が多い地域となっており、困難な状況にある家庭が多い。一方で、地域の人と人のつながりもまだ残っており、地域力の強いことも特色である。
取組の趣旨・目的	<p>近年、地域のこどもの居場所づくりとして、こども食堂が脚光をあびており、現在、全国で3700以上があるといわれています。</p> <p>こども食堂は当初は、子どもの貧困対策の手法として考えられていますが、困難な状況にある子どもと出会い、参加を促すことは困難なことから、現在は子どもを中心に大人や高齢者も含めて、地域の住民が気軽に集え、食卓を囲むことができる地域の共生食堂としての役割が高まっています。</p> <p>桜本こども食堂は2016年度より社会福祉法人青丘社が運営してきましたが、地域の取り組みとして運営していただくの機運が高まり、2019年度より地域の住民と共に団体をたちあげ、運営しています。</p> <p>地域の共生食堂として、毎回、こども、大人をあわせて100人を超える利用者があり、多世代交流の場となっています。また、仕事の忙しい、ひとり親家庭や外国籍世帯の子どもたちの利用も多いほか、保護者の利用も多く、食事をしな</p>

	<p>がら、様々な悩み相談をしていたり、子ども、保護者同士の支え合いの場ともなっています。</p> <p>こうした地域の共生食堂の運営を通じて、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与することを目的とします。</p>		
実施内容・実施スケジュール	<p>桜本こども食堂を年 16 回実施した。3 月はコロナの影響で中止となった。</p>		
参加者の年代	乳幼児～高齢者 (主には未就学児、小学生、保護者)	定員 (1 回あたり)	約 130 名
実施頻度	3 週間に 1 回	活動日数 (年間)	16 日
スタッフ体制	<p>調理チーム 地域住民中心に 5 名程度          食堂チーム 食堂での配膳など地域住民中心に 5 名程度          フロアチーム 中学生や若者中心に 5 名程度</p>		
連携する団体・連携の手法	<p>パルシステム神奈川ゆめコープなど 食材提供          社会福祉法人 青丘社 運営補助</p>		
取組実施により見込まれた効果	<p>こども食堂を通じて、家庭の家事負担の軽減につながった、こどもが家でも楽しそうにしているなど、保護者同士がこども食堂でいろんな話ができているなどの声がたくさんあったほか、子どもたち自身もご飯をみんなで食べられるのがとっても楽しくていいなどの声がたくさんあった。</p> <p>また、地域で実行委員会を立ち上げたことから住民の参加が進んだ。</p> <p>このようなことから子育て支援、地域住民の支え合い、見守りという地域包括ケアの推進、ひいては地域、街づくりにつながった。</p>		